日本キリスト教団　東金教会〔３５〕

2020年８月３０日　聖霊降臨節第１４主日礼拝

年度目標　《教会の民として生きる》

聖　句　良いし知らせをエルサレムに伝える者よ。声をあげよ、恐れるな　イザヤ書４０章９節

【礼拝式次第】

司式　宮中
奏楽　中村
受付　澤本
案内　三枝
名札係　安延
礼拝感謝祈祷　猪野
〃　〃　武田

前奏		中村
讃美歌	６２	一同
使徒信条	５６６	〃
交読文	３３	司・会衆
主の祈り	５６４	一同
聖書		司会者

〈マタイ福音書16章21節～28節〉

祈祷		宮中
新聖歌	４２８	一同
み言葉の伝え		梅田

〈福音的自由としての服従〉

讃美歌	４９５	一同
献金		
礼拝感謝		猪野
〃　〃		武田
報告		宮中
頌栄	５４１	一同
祝祷(派遣)		梅田
後奏	新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖研祈祷会	９月２日(水)午後７時半～
早天祈祷会	7:00～(除・木/日/祭日)メーヤー館
聖書輪読会	９月６日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷	９月６日(日)10:25-10:30

【報告】

☆本日は梅田先生に講壇をお守り戴きました。ご奉仕感謝致します。

☆９月１日より幼稚園第二学期が始業の予定です。幼稚園、保育園共主の業と結びつけられたものです。働きのためご加祷下さい。

☆９月１９日(土)幼・保園運動会［雨天の場合２１日(月)、２２日(火)と順延。２２日も雨の場合は中止］の予定です。今年はコロナ蔓延防止の為教会学校の参加は取り止めです。ご加祷下さい。

☆９月２０日は敬老会を予定しております。お覚え下さい。

※礼拝の持ち方についてのお願い
礼拝は従来のように座ってお守り下さい。但し祝祷後のアーメン頌については最前列に座られる方(ベンチ１脚につき２人まで)は牧師と共に講壇を向いて起立して讃美しても可です。前列以外に座っている方は前列の方に配慮し最後まで座ったままで讃美して下さい。

※千葉支区祈りのカレンダー（掲示板）
今週は我孫子教会(金南救牧師)が対象教会です。お祈り下さい。

※マルコ福音書連続講解説教のCD希望者は牧師まで申出下さい。

【次週(９月６日)聖餐式当番者】

配餐者……武田・井上
祈祷者……藤田・岡村

【８月３０日～９月５日の誕生者】

○8/30児保　　姉　○8/31　　・マンスレ姉　○9/1坂本　　姉　○9/1黒須　　姉　○9/3片岡　　姉

※互いに主に繋がる枝です。祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(8/23)	15	35	４６
聖研祈祷会(8/26)			
聖書輪読会(8/23)	１	２	３
教会学校(8/23)	９	１０	１９

早天祈祷会			
日	男	女	計
8/24	1	1	2
8/25	1	1	2
8/26	1	1	2
8/28	1	1	2
8/29	2	1	3

主日礼拝献金(8/２３)……４0,000円
教会学校献金(8/２３)……５,６０２円

【今日のメッセージ】

題　〈福音的自由としての服従〉
聖　書　マルコ福音書3:３１～３５

1・ペテロと主イエスの衝突

2・信仰告白とその内実

3・福音的自由の賜物としての服従

【次週(９月６日)礼拝式案内】

み言葉の伝え　〈み言葉の種が蒔かれて〉
聖　書　マルコ福音書４：１～２０
交読文　３４
讃美歌　５６番　３５４番
新聖歌　２４３番　５０番

【次週(９月６日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え…中村
司式者…足立
奏楽者…中里
受付者…鈴木
案内者…藤田
名札当番…武田
礼拝感謝祈祷…王
〃　〃…五木田
ｃｓお話し…武田
会堂清掃者…幼稚園教諭
〃　〃…
花係…小林
看板書き…澤本

【聖書から】

「イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた」

マルコによる福音書三章三一節

主イエスが人々に神のお言葉を伝えていた時、イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた、と云う。「人をやって」と云うのはあまりに多くの者たちが主イエスを取り巻いていたからだろうし、何より母マリヤと主イエスの兄弟たちが来たのは主を心配してのことだったことは云うを待たない。「あのナザレから出たイエスという男が変なことを言っている！」そういった噂がナザレまで伝わり、居ても立ってもいられなくなったのであろう。主イエスの家族が実際にはどんな家族であったかは分からない。けれども後に母はもちろん弟たちも主の群に加わったということは、主イエスと家族の人間関係は良好であったと推測できる。一家の大黒柱（この時期には既に父ヨセフは召されていたようであるので：）、であり、一家の精神的支柱とも目されたイエスの変貌を彼らは受けいれられなかったのである。そしてそのような主イエスの心とその家族の思いとの隔てが「外に立ち」と云う言葉の中に表されているように思うのである。それだけではない、その隔ては私たちには越えられない隔てであることを改めて痛感させられる。人との絆が真実の、切っても切っても切れない絆であったら私たちはどんなに心強いことだろう。しかしそのような関係に憧れを持ちながら、現実には人との結びつきを真剣に考えれば考える程このような深い絆はあり得ないことに直面させられるのが私たちである。人の心に分け入ろうとすればする程そこで直面するのは「人は孤独だ！」と言うことだと思う。そしてこの孤独は人の手では如何ともし難い孤独である。もし誰かが「そんなことはない」と云うならその人は人間の実相を見ていないのであり、見ようとしない人だと思う。主イエスはそのような人間の持つ孤独を知っておられたし、何よりその孤独を見据え、この孤独を癒すのは神よりほかないことを告白された方だと思う。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。